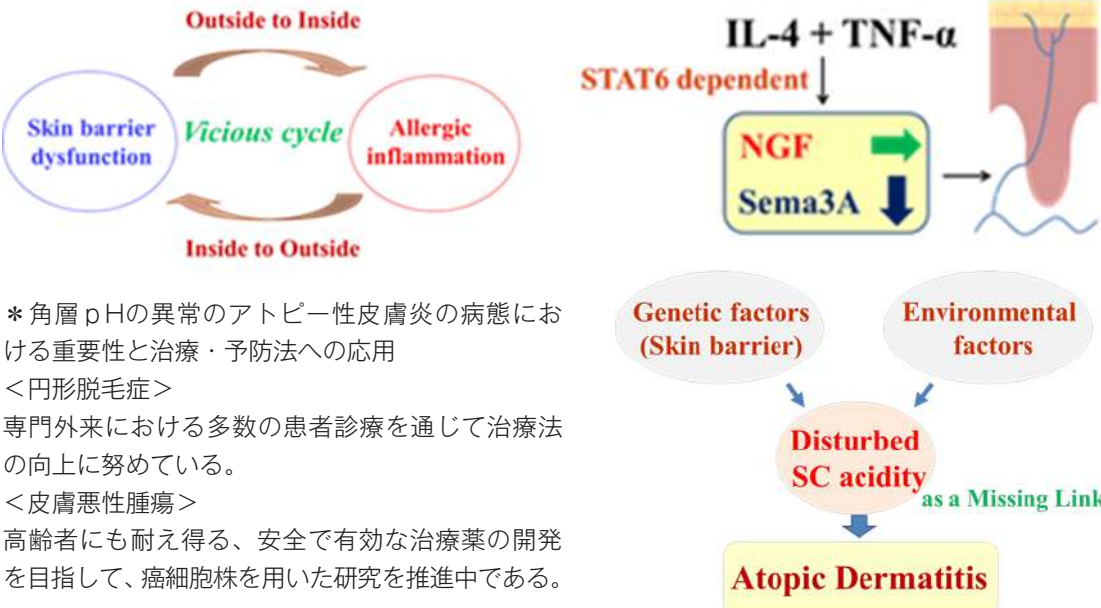


所 属・ 職 位	医学部医学科皮膚科学講座・教授	
氏 名	波多野 豊 (Hatano Yutaka)	
取 得 学 位	博士 (医学)、大分医科大学、2001年3月	
SDGs 目標	 3 すべての人に健康と福祉を	

研 究 分 野	皮膚科学
研究キーワード	アトピー性皮膚炎、円形脱毛症、皮膚悪性腫瘍

研 究 内 容	<アトピー性皮膚炎> *アトピー性皮膚炎の病態の3つの主要な側面である「アレルギー炎症」「皮膚バリア機能」「痒み」の相互関係について研究を行ってきた。特に、タイプ2サイトカインが角層透過性バリア機能に負の影響を及ぼすことは世界に先駆けて示してきた。  *角層 pH の異常のアトピー性皮膚炎の病態における重要性和治療・予防法への応用 <円形脱毛症> 専門外来における多数の患者診療を通じて治療法の向上に努めている。 <皮膚悪性腫瘍> 高齢者にも耐え得る、安全で有効な治療薬の開発を目指して、癌細胞株を用いた研究を推進中である。
---------	---

研 究 業 績・アピールポイント	アトピー性皮膚炎の病態研究では、特に、タイプ2サイトカインが角層透過性バリア機能において重要な角層セラミド産生に負の影響を及ぼすことを世界に先駆けて示してきた。この成果は、皮膚科学分野のトップジャーナルであるJournal of Investigative Dermatologyにおいて注目すべき知見として紹介され、また、免疫アレルギー学のトップジャーナルである、Journal of Allergy and Clinical Immunologyの総説の共著者として報告した。現在も、アトピー性皮膚炎の病態研究についての報告を継続している。 (参考文献) Elias PM, Hatano Y, Williams ML Basis for the barrier abnormality in atopic dermatitis: 'outside-inside-outside' pathogenic mechanisms J Allergy Clin Immunol 2008 Jun;121(6):1337-43
------------------	--